

海外短信



～タイ～

タイの街角で見る新興国の隆盛

～ 万能工業㈱ ～

弊社と津田工業様の合弁会社 **MTAT** はタイの東南部の工業団地イースタンシーボードに位置しており、タイトヨタ様をはじめとした日系カーメーカーへ主にシフトレバーを納入しています。

今まで他の協豊会会員の方々がタイの生活、気候、習慣について十分紹介されていますので、少し違った観点での報告をさせていただきます。当地域にある日系企業の大半の駐在員はここから一時間ほど離れた所に所在する、日本人人口が約 3,000 人を超すシラチャ市に住んでいます。

しかし、私も含まれますが同じく一時間ほど離れたパタヤ市に、居住している少数派の駐在者もいます。この街はもともとベトナム戦争時の米兵の休息地として発生し、その後順調に発展し続けて今ではホテルが林立し **APEC** が開催されるほどの一大リゾート地に変わってきました。

冬は北の国から避寒、夏は南国風情を満喫するために、当地には一年中世界各地より観光客が訪れています。そしてこの街は、宿泊、レストラン、土産物販売、アトラクションの提供と、観光業で成り立っています。

私が暮らし始めた 4 年前とは、お金を落としてくれる観光客が変わってきました。以前は欧州（イギリス、ドイツ）からの観光あるいは定年永住者、時々寄港するアメリカ海軍水兵と、日本人、韓国人の団体旅行客が多く、レストランに入っても英語のメニューと変ななまりのタイ英語が主流でした。

最近では自国の経済成長を反映してロシア、インド、中国、の旅行者が一気に増加しており、居ながらにして **BRICS** の実力を見せ付けられています。ロシア人は家族、夫婦で訪れ肌を真っ赤に焼きながらの日光浴、インド人は大人数で散策、中国団体観光客は昔の日本人と同じように名所を駆け巡り山のような土産を手にするなど、その旅行スタイルもお国柄を反映しています。

商魂たくましいパタヤ商人もこの時流に乗り英語一色だったスタイルから、お客様の变化に合わせて必死の営業努力をしております。その結果、屋台の親父までが片言のロシア語、英語、中国語を駆使したお客様の呼び込み、また効率を考え多国籍向けの看板が街中に溢れています。



全人種対応型看板



狙い撃ち型看板

(インド、アラブ)

(中国、ロシア)



誰でもやってみるタイでのお決まりポーズ。

今後ともこの街は時代の変遷を写す鏡として、その時々景色を見せてくるもの
 と思います。